

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170600102		
法人名	有限会社 ケアカンパニー		
事業所名	グループホーム ゆかい		
所在地	武雄市武雄町大字富岡12245番地6		
自己評価作成日	令和7年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市天神一丁目4番15号		
訪問調査日	令和7年1月22日	外部評価確定日	令和7年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

より良いサービスを提供し、ご利用者様やご家族様にここの施設でよかったと、安心・満足していただけるようにサービスの向上を真剣に考えています。入居者様とのコミュニケーションを大事にしてレクリエーションなどを楽しく生き生きとさせていただけるようにスタッフひとりひとりが自信を持ち、体調変化などの早期発見に努め、医療機関との連絡体制をとっている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

開設して22年、法人の中では最初に手掛けた施設である。アットホームな雰囲気も相俟って、家族からは訪ねて行きやすいと評価されている。日頃から自由に意見も言い易い職場環境であり、会議を待つまでもなく、その場で見直されることもある。職員間にはお互いさまという考えでの助け合いもあり、同僚のケアを見て学んでいる様子も窺える。また現場にある程度の裁量を委ねている点も特長で、職員の成長や自信へと繋がっている。
--

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月1回のミーティング・ケース会議を行い、運営理念を毎日の申し送りの時に職員と確認している。	「ゆとり」「かいてき」「いやし」の頭の文字に由来する事業所「ゆかい」には、名称と同様に思い入れのある独自の運営理念がある。目に付く場所に掲示され、毎朝の唱和により意識付けも図っている。利用者それぞれに違う能力の活かし方を検討し平等に接する様子には、言葉使いも大切にする姿勢が基本にある。理念が日々のケアに活かされているのが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナで地域の方との交流ができずにいる。	コロナ感染症が5類へ移行したとはいえ、今季のインフルエンザ流行もあり面会等には制限も見られる。自己評価でも「馴染みの人や地域の人々の訪問は殆どない」と答えられている。自治会に加入しており、回覧板も届けられる事業所は、通常であれば地域との交流も可能であった。高齢者を預かる施設として用心を重ねながら、当たり前の暮らしが続けられるよう支援している。嘱託医と相談しながら緩和時期を探っているのが現状である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2, 3か月に1回は運営推進会議を行っている。地域の広報紙などは毎月届けてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2. 3か月に1回は運営推進会議を行って、利用者様やそのご家族様に参加していただいている。	会議は14時から40分程を要し、双方向な意見交換が行われている。行政側は代理でも出席者を出し、全ての家族に周知しているため複数の参加もある。事業所には、この会議を外部の目が入る貴重な機会と捉え、出された意見をサービスに活かそうとする姿勢は窺える。認知症対応型共同生活介護サービスでの開催頻度は概ね2ヶ月に1回以上が義務付けられている。開催日を、例えば奇数月の第1月曜というふうに設定しておけば、事業所だけではなくメンバーにとっても予定が立て易い。集合する会議が難しい時はリモートや資料の配布を以って開催と同様の措置もある。今後の開催状況にも期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターに運営推進会議への参加をお願いしている。	運営推進会議のメンバーでもあり、日頃から顔見知りである。接点はこの会議のみで、行政側へ質問等があれば法人へ伝え、そこから行うことになっている。傘下の事業所をまとめ、法人として行政側との協働関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	長時間の座りなど利用者様本人の負担にならないよう身体拘束のないケアに気配りをしています。	入居契約時に指針の説明を行っている。年2回の外部研修を受けた者は、職員会議やレジュメにより伝達講習の役目も担っている。ビデオ視聴による独自の研修もあり、職員は身体拘束の内容やその弊害まで理解している。交通量の多い県道に面しているが、玄関に施錠はない。職員の日配りや人数を数える習慣も相俟って、安全な暮らしが支援されている。外へ向かう方があれば無理に引き返すこともない。行動は抑えないのが基本である。仮に不適切なケアがあれば、まず本人に理由を尋ね、内容によっては全体へ提起するとなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護の場面や職員の間で虐待にならないか検討しながら対応している。全体会議の場でも取り上げたりして、虐待防止に努めている。管理者は虐待の研修に参加し、職員と情報を共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	プランに沿って支援していて、成年後見人制度については利用発生時に説明し、理解して対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時や改定の時は書面にて説明している。話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話しやすい雰囲気づくりを心掛けているが、どなたでも意見が言えるように意見箱の設置をしている。	毎月の利用料支払いを敢えて持ち込みとしており、家族の来所は多い。コロナ禍からインフルエンザ流行へと緊張が続く中、面会には玄関内のソファを使い、制限は緩めずにいる。居室でゆっくり話してもらうためにも、嘱託医と相談しながら緩和のタイミングを計っている。遠方の家族には定期的に電話を掛け、近況を伝えながら話に耳を傾けている。自己評価では「ほぼ全ての家族と信頼関係が出来ている」と回答し、家族アンケートには「話をよく聞いてくれる」「気軽に訪ねやすい」と答えた方が多かったが、意見を記す方もあった。出された意見を真摯に受け止め、回答・説明を行い、サービス向上へ繋げようとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ミーティングで職員の意見、業務内容、改善点など、その都度積極的に取り入れている。	職員会議は概ね90分、休みの職員には出欠判断を任せている。自由に意見も言い易い職場環境であり、日頃から互いの経験を口頭で伝え合い、ケアに活かすこともある。会議では主に利用者毎のカンファレンスを行い、研修等の伝達や行事の確認なども組まれている。また管理者としては働きやすい職場であるよう配慮も必要だが、日頃からコミュニケーションを図り、「ありがとう」を声に出す事を心掛けている。定時での帰宅を促し、現場の声は法人にも届けている。	

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間のトラブルなど発生した時は代表者が個々の面談を行ったりして対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会などの情報があれば、スタッフに情報を提供し、気軽に利用してもらえるようにしている。研修会で学んだことを施設でも取り入れていきたい。研修後は、研修報告書を作成し、記録する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加する機会を通して、同業者と交流している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様に不安などがあれば、話をしてその不安などを取り除けるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に不安や困っていることがあれば電話などで関係作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する時、ケアプランに沿ってご本人様とご家族様に伝えて対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を畳んでもらったり、新聞たたみを一緒にしてもらったりしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の利用料の支払いにご家族様が出向いてくださるので、その時に日々の様子をお伝えしたりする機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月1回ほどドライブに出かけたり、親戚の方と電話でお話しされたり、関係が途切れないよう支援に努めている。	入居時には本人や家族、担当のケアマネジャーから話を聞き、これまでの人間関係等の把握をしている。それらを基に具体的な支援へと繋いでいたが、コロナ禍から続く制限がまだある。通常であれば盆正月の帰宅や法事への出席など希望に応えていたが、現状では慎重な対応となっている。しかし、電話の取次ぎはいつでも可能であり、直に面会もできる。年賀状を職員のサポートにより書いた方もあり、厳しい中にも関係が継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係がうまくいくように状態に合わせた席替えをしたり、意思疎通が少ない方は様子を見て思いを汲み取るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も気軽に来てくださいなどお声をかけをさせてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の対応を考え、利用者様の行動を熟知し、ご本人様の希望であれば話し合い、可能な限り叶えるようにしている。	利用者が想いを話してくれる時がある。入浴中の寛いだひとときや、一対一で傍にいる食事介助などがそれである。スキンシップも交えながら、急かさず待つ姿勢を心掛けている。お気に入りの職員を待つ方がいたり、職員には利用者の変化に気付けるという自負もある。聞き取った事は口頭や申し送りノート、またケース記録等で共有を図り、そこからケアプランへ反映させた例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様との面談を行い、ご本人の生活歴・趣味などを把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の状態を把握し、ご本人様が出来ることを見つけ、どのように過ごしたいか把握できるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員で毎月、利用者様の担当者会議をおこない話し合う。ケアマネジャーと考察し、家族の意見を取り入れている。	ケアプランの設定期間は短期6ヶ月、長期1年としているが、その間に変化があれば臨機応変な対応もある。利用者の想いは日頃のケアの中で把握し、家族の要望等は面会時や電話での会話から汲み取っている。家族からは現状維持を願う声が多い。歳を重ねる毎に身体機能の低下は否めないが、職員は何にでも手を貸すのではなく、見守りの中で出来る事をやってもらう支援に努めている。また当外部評価アンケートでは「ケアプランの説明を受け一緒に話し合っている」と答えた家族がいる一方で、「説明は受けたが話し合っていない」という答えもあり、事業所では平等に伝わるよう対応の仕方を検討している。職員会議でのカンファレンスを活かし、ケアマネジャーによるモニタリングも毎月行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にケアの実践、結果、気づきを記録し、申し送りを行い、情報の共有をする。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の要望があれば、話し合いを行い、対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回消防署に協力してもらい、避難訓練を行ったり、民生委員さんや市の職員さんとの情報交換をしながら支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回定期往診をしてもらい、ご利用者様の状態変化がないか、早期発見に努めている。	全ての利用者は協力医をかかりつけとしている。入居後に訪問診療等の説明を聞き、納得して変更を希望している。受診に出向く場合は職員が付き添い、その結果報告はケースにより当日中であつたり、来所時にまとめることもある。家族アンケートでは「健康面や医療面などで心配な点はあまりない」と答えた方も多い。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が疑問に思ったことなど、看護職に聞くようにしている。個人の状態や病状がわかるように記録し、医師へ提示している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、支援方法に関する情報を医療機関に提供し、電話連絡を通し、情報を得ている。医師や看護師より、助言、サマリーを通して情報を得る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時の体制がとれている。医師、本人、家族と話し合いを行い、要望があればターミナルケアに入る前までを事業所でサポートできればと思っている。	入居契約時に指針の説明を行っている。事業所の体制等を考慮し、終末期前までのケアとしている。容態の変化に伴い、揺れ動く家族の気持ちを踏まえ、話し合いは何度でも重ねることとしている。選択肢の提案やかかりつけ医からの説明もある。安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	場合によっては、医師による往診の協力もいただいている。急変された場合、医療行為は出来ないが、やむを得ない場合は、医師の指示に従い行う。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練、なかでも風水害の対応方法は職員全員に勉強してもらい、理解してもらっている。災害に対する意識向上、消防用設備等の点検業者を交えて点検を行っている。	年2回の避難訓練は昼間帯に行い、夜間は想定のみである。事業所独自の訓練で、夜間想定時には夜勤とみなした職員のみで初期対応を試みている。職員だけの誘導・避難の限界は承知しているが、交通量の多い県道沿いで周辺に頼れる民家はなく、向かい側に建つ企業の社員寮には挨拶をしている。職員は通報装置や消火器の使い方を承知しており、利用者と一緒に避難を体験している。リビングの食器棚は固定され、その扉の開放を防ぐ金具も付けてある。居室にはドアを塞ぐような家具の配置もない。近年の自然災害が侮れないことも既に経験している。これまでに2度、同法人施設へ避難しており、その貴重な体験は職員の糧となっている。また訓練での気づきや課題は、同日に開く職員会議に諮り速やかに改善される。火災・自然災害共に避難先は同法人施設で家族にも周知している。非常食等の備蓄品もそこで保管されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から運営理念にもあるので確認し、言葉かけや対応をしている。	トイレや入浴の介助では羞恥心等への配慮が最も求められる。具体的にはドアは閉める、ノックをして確認するなど基本的なことをきちんと行っている。また個人情報の取り扱いに対する職員の意識も高く、業務上のやり取りであっても声の大きさには注意を払っている。入居契約時には書面での説明を行っているが、今後は事業所内での写真掲示等についても加えていく予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意思は尊重している。 料理の希望やお風呂、行事の行き先など様々な面で取り入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションを毎日行っているが、利用者様の意思確認をし、参加していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は訪問理容を利用している。 服装などは自分の好みで着ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やおやつはリクエストを聞いている。	およそ1ヶ月前から主菜・副菜の業者委託が始まっており、事業所ではご飯と味噌汁が用意される。好き嫌いやアレルギー有無の把握はしており、苦手な食材やメニューには代替えもある。普通食の方でもおかゆ希望が多く、それに沿って提供され、各自の食欲もある。自分で口へ運んでほしいとの思いから器などは軽いものを使い、介助は最小限に止め、半数の方は見守りだけで過ごせている。テーブル脇のキッチンからは美味しそうな匂いと共に食事時が伝わってくる。家庭と同じである。また誕生日にはプレゼントが用意され、プリンのアレンジをケーキ代わりに皆で祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量も1日を通して何回かに分け、摂取していただいている。栄養が足りていない場合は、医師の指示で経口栄養剤を飲用されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行うよう、習慣化している。できない場合は介助する。夜は義歯の消毒をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗がないように三時間おきにトイレに誘導し、おむつの方も個々に応じた排泄パターンのケアに努めている。	排泄に関して自立している方もいるが任せたままではなく、さり気ない見守りも行っている。日中はトイレでの排泄を主とし、自己評価に記された3時間置きの誘導に努めている。この時間の根拠は職員の経験値と、おむつメーカーが公表する仕様から導き出したものである。排泄状況を記録し活用することで、入居後にパット類の使用枚数減となった例もある。これは費用負担減にも繋がっている。トイレ内には手すりが設置され自立を促す補助具として役立っている。	利用者の費用負担減も目指し日々のケア・誘導に努めている。しかし3時間置きとした数値はあくまで平均値であることから、利用者毎に見られる仕草やサインなどを活かした柔軟な対応にも期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因にならないように飲食の工夫や歩行訓練を個々に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の希望があればその時に対応している。皮膚疾患の方など状況を見ながら入浴の頻度を調整している。	入浴は週2回を目安としているが、お風呂の準備は毎日できているため、希望があればこの限りではない。拒む方はなく、入浴しない日でも肌着下着の交換をし、清潔保持に努めている。入浴剤で寛いでもらいながら、一対一で介助をする中で想いを話してくれる方もいる。ソープ類は事業所で揃えているが、皮膚の弱い方が個別に用意することもある。歳を重ねる毎に浴槽へ浸ることも難しくなっている。シャワーチェアや足浴容器を活かしながら支援している。冬場のヒートショックには脱衣場の暖気を浴室側へ送ることで対策とし、衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ見守っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣でその時々状況に応じてお昼寝や、安心して気持ちよく眠れるようにお布団を干したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の名前と目的を書面ですぐに確認できるようにしている。新しい薬が処方されると申し送りで情報の共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゴミ箱づくりと新聞たたみなど、晴れた日には日光浴をしたりして気分転換を支援する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月、季節により、行事としての外出や利用者様の希望に沿った外食をしたりして、一緒に取り組んでいる。	事業所の立地が交通量の多い県道沿いになるため、散歩に適した場所は少なく、脇道の方へ向かうにも注意が必要となる。利用者からの外出希望も徐々に少なくなり、原因のひとつにはコロナ禍での自粛生活が筋力低下を招いたのではないかと考えている。対策に苦慮する中、新年には初詣に出掛けたり、暖かくなれば季節の花見行事も予定されている。受診での外出も外の空気に触れる機会と捉え、五感の刺激にもなるよう努めている。	職員数や立地環境等から屋外へ連れ出す難しさは理解できる。しかし体調面以外で、殆ど外へ出ない方が数名いるのは日常生活動作(ADL)の低下、ひいては生活の質(QOL)の低下が危惧される。事故のないよう支援に努めている日々を認めつつ、今後は、知恵を出し合い、より良い外出支援ができることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の希望があれば、家族と相談して少額のお金を所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、ご本人様の希望があれば気軽にできるようにはしている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには手作りの貼り絵などを飾ったり季節の飾りつけなどを飾り、脱衣室の温度には気をつけている。	利用者の動線上に行動を妨げる物はなく、廊下もスムーズに通ることができる。リビングの食卓を兼ねるテーブルでは利用者が新聞紙を折る作業をしたり、窓際のソファで寛ぐ方もいる。道路沿いのため騒音はそれなりにある。ブラインドで光の調節をし、時間を決めて換気も行っている。これは居室も同様である。手を触れる箇所の消毒もこまめに行い、掃除は職員が行うが、出来る事を手伝う方もある。浴室やトイレはきれいに掃除され嫌な臭気はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にこもりがちになるので、声がけをし、リビングでテレビを見たり、歌を歌ったり、ご利用者様同士で思い思いに過ごせるように居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様と相談しながら使い慣れたものや好みのものを活かして過ごせるように工夫している。	火気等の危険物以外に持ち込む品物の制限はない。本人や家族と話し合いながら配置を決め、思い思いの飾り方で居心地よく過ごしてもらえるよう支援している。各居室にクローゼットがあることで整理整頓もしやすく、すっきりと片付いている。天気が良ければ布団を干す手間も惜しまない。家族が希望すれば居室での宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送ってもらえるように見守り、必要な場合だけ介助させていただいている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない